

講義科目3-2

公衆衛生学総論モデル・コア・カリキュラム

全体目標

公衆衛生の基本的な考え方を理解し、公衆衛生に関連した様々な問題解決を行うためのアプローチの手法を通じて、国民の健康増進、動物福祉、地球環境保全等に役立ち得る知識を学ぶ。

(1) 公衆衛生学の考え方と概要

一般目標：

人を対象とした疾病の予防、健康の保持・増進について理解し、公衆衛生活動を実践する上で、社会で実際に行われている公衆衛生に関する業務とその意義・アプローチの仕方を説明できる。

到達目標：

- 1) 公衆衛生の目的と公衆衛生活動の進め方を説明できる。
- 2) 疾病の発生過程と予防活動の考え方を説明できる。
- 3) 公衆衛生とそれに関連する動物衛生分野との連携活動について説明できる。

(2) 獣医公衆衛生学の役割と課題

一般目標：

多様化かつ複雑化してきた公衆衛生上の社会的ニーズに対応するため、公衆衛生学における一次的予防活動と獣医学との関連を理解し、人獣共通感染症の監視と防疫、食品衛生、環境衛生、動物愛護と福祉の分野における獣医師の役割を説明できる。

到達目標：

- 1) 食品衛生における獣医師の果たす役割と実際の活動状況を説明できる。
- 2) 人獣共通感染症の監視と防疫に果たす獣医師の役割を説明できる。
- 3) 環境衛生における獣医師の果たす役割と実際の活動状況を説明できる。
- 4) 動物愛護と福祉の概要と獣医師の役割を説明できる。

(3) 国民衛生の動向

一般目標：

国民衛生に関連する種々の保健統計の種類とその意義を理解し、衛生水準や問題点を把握して公衆衛生活動の臨むべき方向性を説明できる。

到達目標：

- 1) 人口統計を説明できる。
- 2) 疾病統計を説明できる。
- △3) 生活環境衛生統計および環境保健統計を説明できる。

(4) 人と動物の共生と公衆衛生

一般目標：

人間は動物を介して心理的・社会的、さらには生理的機能にも影響を受けていることから、人と動物が地球上の同じ生物として共存することの重要性を学び、動物への福祉を念頭に入れた具体的なアプローチの仕方を説明できる。

到達目標：

- 1) 人と動物が共生することの意義を説明できる。
- 2) 動物の飼育にともなって公衆衛生上問題となる事項を説明し、その行政対応について説明できる。
- 3) 人と動物の共生を目指した公衆衛生行政の取り組みを説明できる。

(5) 公衆衛生行政 I (行政組織)

一般目標：

行政における公衆衛生の体系、規制原理、および

実際の行政活動について、実社会における公衆衛生の役割と意義を説明できる。

到達目標：

- 1) 獣医公衆衛生行政の範囲を説明できる。
- 2) 公衆衛生行政の枠組みを国と地方のレベルで説明できる。

(6) 公衆衛生行政Ⅱ (法規)

一般目標：

公衆衛生行政活動を行う上で基本となる法的基盤を把握し、公衆衛生行政を遂行する上でそれらがどのような役割を果たしているかを学ぶ。

到達目標：

- 1) 公衆衛生の法体系を説明できる。
- 2) 食品及び乳肉衛生関係法規、感染症関係法規、動物の愛護及び管理に関する法律ならびに環境衛生関係法規の目的と概要を説明できる。

(7) 感染症とその対策

一般目標：

人間社会における食品生産方式、食生活様式、国際貿易、動物飼育形態、自然開発にともなう生態系の変化などによる病原微生物の循環システムを総合的に把握することで、感染症の様々な発生要因を理解し、感染症予防対策のための基本的な考え方を説明できる。

到達目標：

- 1) 感染症の発生要因と感染症予防の基本原則を説明できる。
- 2) 消毒の意義と主な方法および病原体の取扱いや安全管理を説明できる。